

資質・能力（身につけさせたい力）の視点から指導案を作成してください。

第 学年 科学習指導案

【参考資料】

- 学習指導要領解説（H29）
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

令和 年 月 日（ ） 校時
○○○学校 年 組 名
授業者

1 単元名 年間指導計画 P○○（月）指導内容

○教科によっては、題材名となる場合がある。（音楽、美術、技術家庭等）

2 単元の目標

- (1) ○学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説を踏まえて作成する。
- (2)
- (3)

【知識及び技能】
【思考力、判断力、表現力等】
【学びに向かう力、人間性等】

3 単元について

(1) 教材観

- 学習指導要領解説のどの内容を受けて設定した単元（題材）なのかを明確にする。
- 本単元で身につけさせたい資質・能力について考察する。
- 教材の分析や素材の魅力がある場合には明記する。

(2) 児童・生徒観

- 本単元の学習に関わる児童生徒の実態を考察する。
- 本単元では、どのような児童生徒の姿をめざすのか。
- 既習単元の学習状況、情意面におけるアンケートや諸調査の実態等からも分析をする。

(3) 指導観

- 「教材観」と「児童生徒観」から、教材の特徴を生かし、どのような学びを展開させていくのか。
- 校内研究・個人研究、児童生徒の課題にどのようにせまるのか。

4 単元の評価規準

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の第3編と巻末資料を参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文末「～している。」		文末「～しようとしている。」

5 単元の指導計画・評価計画

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の第3編の事例を参照

- 本時は太枠で囲む。
 - 「指導に生かす評価」は毎時間行う。(教科によっては、表記しない場合がある。)
 - 「記録に残す評価」は、単元の適切な場面に設定する。
 - 評価は、単元や題材等のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で評価を行うなど評価場面の精選をすることが大切である。(第3編 第2章)
- ※「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、1時間目から「記録に残す評価」を見とるのは可能かどうかを検討する。
(主体的に学習に取り組む態度：粘り強い取組を行おうとする側面、自らの学習を調整しようとする側面)

【中学校社会の例】

(○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習活動	評価の観点		評価規準等
		知	思	
4 時 間 扱 い	主権や人権、平和などに関わる現代社会の諸課題について、これまで学んできた歴史の大きな流れの中で考察し、自分の考えや意見をまとめよう。その意見について互いに話し合う中で、よりよい社会の実現に向けて、続けて追究したい「問い」を提案しよう。			
	① 「問い」をつくる ・ これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関わる現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。	●	・ 読み取った情報や、話し合いの結果を活用して、自ら「問い」を考察し、表現している。	

【小学校算数の例】

時間	ねらい・学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1次 データを整理する方法を考え、観点を定めて表に分類整理する。				
1	・データカードを、整理して並べる。		・思① (行動観察)	
2	・「その他」の使い方を知り、表にまとめる。	○知① (ノート分析)	○思① (行動観察, ノート分析)	

【中学校数学、小学校理科の例】

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	・具体的な場면을調べることを通して、平行四辺形の定義、性質を理解できるようにするとともに、平行四辺形の性質を利用して辺の長さや角の大きさを求めることができるようにする。 ・平行四辺形の性質を証明することができるようにする。	知		知①②：行動観察
2				
3	・各自で証明のための図をかき考察することから、どんな図でも証明できていることを確かめる。このことを通して、平行四辺形の性質を利用し、図形の性質を証明することができるようにする。	思		思①：行動観察

6 本時の指導「」(/ 時間)

(1) ねらい

- 児童生徒がどのようなことを言えたり書けたりすれば、目標を達成したことになるのかを具体的に。
- 児童生徒に身につけてほしい事柄を具体的に記述。

(2) 本時の評価規準

評価の観点		○評価の観点には、観点名を1つ記入。(多くても2つ) ○評価規準には、「おおむね満足(B)」の達成状況を記入。 ○評価方法には、授業内(途中)及び授業後(本時を振り返りため)の評価方法を記入。
評価規準		
評価方法	授業内： 授業後：	

(3) 「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善(教材・発問・問い返し・過程工夫等)

場面	工夫点	めざす子どもの姿
○本時の授業をどの場面でのどのような工夫を行い、 どんな児童生徒の姿をめざしているのか。		

(4) 展開

過程	学習活動	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点、評価等
見通す (つかむ・ 導入(○分))	問題		
	めあて(課題)		
深める (考える・ 展開(○分))			
振り返る (まとめる・ 終末(○分) 振り)	○まとめは授業によっては振り返りの中で行う場合もある。		

(5) 板書計画

○本時の授業の最後に書かれる板書を想定して作成する。 ○実際に黒板に書いたもの(表示したもの)を撮影して、貼り付けてもよい。 ○ICTを活用する際には、課題やワークシート等を添付する。
--